



青少年赤十字

J R C ふ く し ま

編集発行

青少年赤十字
福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部
〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7998

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.

「気づき考え実行する」を 教育活動の機能として



青少年赤十字福島県指導者協議会

会 長 轟 田 祐 子

今年度より青少年赤十字福島県指導者協議会の会長を務めさせていただいております。福島市立福島第一小学校長の轟田祐子でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

青少年赤十字と私の出会いは、今から二十年ほど前、福島市立蓬萊東小学校が青少年赤十字学校公開の指定校となり、参加させていただいたことに始まります。その後も三年間にわたり、各地区の学校公開に参加させていただきました。

当時は、学習指導要領に「生きる力」が掲げられて間もない頃であり、「新しい学

あり方、終末において、これから自分はどうあればよいか、どのように「実行する」かを発表しあい、まとめていく授業が提案されていきました。

さらには、生徒会活動や児童会活動における集会活動を公開し、現在の学校生活の現状から課題に「気づき」、よりよい学校生活のために何をすべきか「考え」、いつ、誰が、どのように「実行する」かを小集団や全校生で協議し、今後の生徒会活動や児童会活動の見通しを持つといった活動が展開されていきました。

現在、次期学習指導要領の移行期を迎え、二〇二〇年度より完全実施となります。この学習指導要領には、人間の予測を超えて進展している変化の激しい社会にあつて、様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら自分を社会の中でどのように位置づけ、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成が

求められております。学校教育においては、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確に捉え、社会に開かれた教育課程のもと、どのように学ぶかが問われています。「気づき、考え、実行する」というJRCの態度目標は、次期学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」にも通じるものと捉えております。

昨年度の白河市立信夫第一小学校及び大信中学校の学校公開においても、次期学習指導要領を見据え、JRCの実践目標を達成するための態度目標を機能させた授業が公開されました。

このような「気づき、考え、実行する」を機能させた教育活動の公開が、現在も継続して実施され、青少年赤十字の

取組が児童生徒の現在、そして将来にわたる「生きる力」の育成に寄与していることは、誠に意義深く、取り組んでこられた学校関係者はもとより、日赤福島県支部、賛助奉仕団の御支援の賜物と深く敬意を表するものであります。

これからも、JRCの考え方を教育活動に機能させながら、児童生徒に生きる力をはぐくみ、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材として成長することができるよう指導者協議会の活動に鋭意取り組んで参りたいと思います。

青少年赤十字指導者協議会の皆様をはじめ、各学校の先生方におかれましては、今後とも御支援御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成三十三年度青少年赤十字 福島県指導者協議会総会開催

五月十日(木)日本赤十字社福島県支部において福島県教育委員会教育長鈴木淳一様代理義務教育課主幹板橋竜男様、福島県青少年赤十字賛助

奉仕団委員長藤田伸朝様のご来賓と県内各地区の会長が出席され指導者協議会総会が開催されました。会議では、前年度の事業・会計報告、活動

の反省、今年度の努力目標、事業計画が審議されすべて承認されました。

今年度も更なる青少年赤十字活動の充実を目標に、学校公開、指導者講習会、一〇〇文字提案など児童・生徒が生き生きと活動することが出来る環境を整えていくことが確認されました。

平成三十年度の 主な行事(十月以降)

● 青少年赤十字指導者研修会 並びに学校公開

期日 十月十九日(金)
場所 西会津町立西会津小学校
西会津町立西会津中学校

学校
西会津町立西会津中学校

● 青少年赤十字指導者協議会 第二回会長会

期日 十一月十五日(木)
場所 日本赤十字社福島県支部

支部

● 国際交流集会海外メンバー 受け入れ

期日 十一月十七日(土)
十一月二十二日(木)
福島県高等学校青少年赤十字連絡協議会

年赤十字連絡協議会
秋季総会参加等

● 福島県高等学校青少年赤十字 連絡協議会第五十一回 大会

期日 十一月十七日(土)

場所 十一月十八日(日)
いわき市新舞子ハイッ

● 詩・一〇〇文字提案作品表 彰式

期日 十二月二十五日(火)
場所 日赤福島県支部

場所

● 青少年赤十字・スタディ センター

期日 三月二十二日(金)
場所 山梨県山中湖東照館
二十六日(火)

場所

平成30年度 青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

役員名	氏 名	学 校 名
会 長	栢田 祐子	福島市立福島第一小学校
副会長	渡部 学	三島町立三島小学校
副会長	吉内 次夫	相馬市立日立木小学校
副会長	吉田 強栄	福島県立福島東高等学校
監 事	菅野 敏彦	二本松市立大平小学校
監 事	服部 秀夫	猪苗代町立緑小学校
監 事	白石 文夫	福島県立郡山高等学校

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長 藤田伸朔先生 全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会会長就任

この度、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長の藤田伸朔先生が全国の会長に選出されました。長年青少年赤十字活動に尽力され、福島県の賛助奉仕団委員長としても積極

的に会の運営に取り組まれた。また、多趣味で赤十字活動以外でも様々なことに挑戦している藤田先生の今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

指導理念のすばらしさ

全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会会長 藤田 伸朔



青少年
赤十字の
貴重な会
報の紙面
に投稿の
機会をいただき感謝いたしま

す。青少年赤十字賛助奉仕団についてご理解いただくために、成り立ちと組織と活動についてお話しします。

かつて教員として活躍していたころ(ええ、私にもそんな時代があったのです) 青少年赤十字加盟校として、奉仕活動や一円玉募金、トレセンなど子供たちと向き合ったことを忘れることができません。

良き指導者だったかどうかは、反省しきりのところばかりですが、青少年赤十字の指導理念のすばらしさに後押しされ、子供たちの変化におどろかさ

れたこともあって、退職後、賛助奉仕団活動にかかわっているという次第です。

「指導理念のすばらしさ」と言いましたが、発足当初からあったのではなく、赤十字の精神を指導者が様々な指導体験の中から生み出してきた指導上の考え方だということ。ここがすばらしいと思うのです。(是非、本社発行「青少年赤十字指導者手引き」を参

照ください) 指導理念がすばらしくても、かつての私がそうであったように、実践する側に気づきや行動しようとする主体性がなくては始まりません。そのために、賛助奉仕団としてお手伝いできることがありそうに思えるのです。先輩としての振る舞いに気を配りながら。全国青少年赤十字賛助会が発足したのは、昭和三十九年です。福島県では昭和五十八年に県支部と先輩たちが立ち上げたもので当初は二十数名の団員による発足総会が行われたという記録があります。現在は、賛助奉仕団として県内六地区で組織され、主に小・中・高校の元教員で構成され、最近では賛同する市民の方の参加も見られ、七百名を超える団員がおります。青少年赤十字賛助奉仕団は全国四十七都道府県に組織され、青少年赤十字の普及発展のためにどのような協力奉仕ができるのか、情報交換や課題の共有を図っています。その中でとても大切にしていることは、「指導者協議会と連携を図って」このことにつき

ます。よろしく申し上げます。

登録式効果

いわき市立平第一小学校 校長 伊達多津也



福島県支部の方から、本校が、県内で初めて少年赤十字団を結成した学校ということを知り、教えていただきました。学校沿革によると、団結が大正十二年五月であり、少年赤十字のはじまりが大正十一年ということから、先駆けであったことが分かりました。

しかし、本校のJRCの活動は、JRC環境委員会という委員会活動として日常的に取り組んでいるものの、子ども達や教職員の活動と意識は低迷していたのが現状でした。そのため、まずは、意識を高めるために、登録式を行うことにより、JRCの意味を全校生で確認することとして、昨年度から準備をして、今年度、全校集会で登録式を実施することができました。子ども達と教職員にとって、手探りのものでしたが、県支部の皆様のご助言をいただき、担当(教職三年目)がよ

く頑張ってくれたことも大きな成果でした。
登録式を終えた子ども達の感想です。

・登録式の誓いのことば唱和の時、JRC委員が言ったことを全校生が繰り返して言った時、自分たちが中心になって学校をリードしていくんだという気持ちになりました。
・五年生まではJRC環境委員会の意味を知らないで、同じことを繰り返していましたが、平一小だけでなく校外のことにも目を向けて、自分たちでできることを活動していきたいです。

本校の教育目標現に「気づく 考える 実行する」を掲げています。子どもや教職員の感性を磨き、自らが主体的に動けることをめざしているこの言葉は、JRCでめざしているものと合致しているものだと思います。登録式を行なったことにより、子ども達の「あれ」「そんなことがあるの」という気づきが、「自分たちで何かできないか」と考えること、そして実行することに広がることを期待しています。

平成三十年度

青少年赤十字指導者講習会

コミュニケーションの大切さを実感

青少年赤十字への理解を深めるとともに、児童生徒の実践活動に生かしていくことが出来ればと思います。

主な内容と講師

講話

「赤十字と青少年赤十字」

学校法人松韻学園福島高等学校 根本 裕之

「先見・VSについて」 賛助奉仕団 浜津 昌宏

講話

「ワークショップについて」 白河市立信夫第一小学校 木村 真一

防災教育演習

「自分だったらどうする」 福島成蹊高等学校 鈴木 智美

講話

「青少年赤十字と学校教育」 福島大学総合教育研究センター 准教授 宗形 潤子

実践事例発表

西会津町立西会津小学校 校長 岡崎 秀明

青少年赤十字が掲げる三つの実践目標「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実現を図るため、日常生活で児童生徒一人ひとりの価値観を高める指導者の育成を図ることと青少年赤十字活動の振興充実を図ることを目的に、八月八日(水)～十日(金)の二泊三日、次の日程で郡山市青少年会館で開催されました。参加者は、幼稚園一、小学校三十二、中学校十四、高校三の五〇名となりました。
受付から指示のない生活、VS(ボランタリーサービス)や先見といった特徴あるプログラム、初めての先生にとっては戸惑うことも多かったと思います。グループの仲間と力を合わせてフィールドワークを体験し、最終目標であるワークショップの完成に向けて自分自身と深く向き合った三日間となりました。

学校、子供たちのことに「気づく」先生方の目がスタートなのだと勉強になりました。

研修会で明らかにした自校

も新しいスタートラインに

立ってください。

時 刻	8月8日(水)	8月9日(木)	8月10日(金)
6:00		起床・清掃 (VS活動) 6:00~7:00	起床・清掃 (VS活動) 6:00~7:00
7:00		朝の集い 7:00~7:30	朝の集い 7:00~7:30
8:00		朝食、VS活動 7:30~8:30	朝食、VS活動 7:30~8:30
9:00	支部職員到着予定…8:30 スタッフ集合時刻…9:00 9:00から打ち合わせ	先見 8:30~8:40	先見 8:30~8:40
10:00	受 付 9:30~10:00 アイスブレイク・記念写真撮影・開講式 10:00~11:00	講話 「青少年赤十字と学校教育」 8:40~10:10	ワークショップ (WS) [HR] 8:40~12:00
11:00		実践事例発表 西会津小・西会津中 10:20~11:20	
12:00	講話 「赤十字と青少年赤十字」 11:15~12:00	フィールドワークについての説明	
13:00	[HR] 顔合わせ 12:00~12:15 昼食 12:15~13:00 先見、V.S等について 13:00~13:45	昼食 「ハイゼックス炊飯」 「三角巾の活用等」 11:50~13:30	昼食 12:00~13:00
14:00		野外活動 「フィールドワーク (FW)」 13:30~16:30	まとめ (WSの発表) 13:00~14:15
15:00	防災教育演習「BCW」 14:00~15:00		[HR] 振り返り 14:15~14:30
16:00	ワークショップ (WS) 「学校教育への生かし方」 15:15~16:15	[HR] 野外活動講評 16:00~16:30	閉講式 14:30~15:30 解散予定 15:40
17:00	[HR] 「ワークショップテーマの設定等」 16:30~17:30	[HR] 「活動の反省、一日の振り返り、これからの見通し等」 16:45~17:45	
18:00			
19:00	夕食、交流会 18:00~19:30	夕食、入浴 18:00~20:00 (入浴は、19:00から)	
20:00	入浴 19:30~20:30		
21:00	自主研修時間 20:30~21:30	自主研修時間 20:00~21:30	
22:00	情報交換 (スタッフ打合せ) 21:30~22:00	情報交換 (スタッフ打合せ) 21:30~22:00	
23:00	消灯 22:00	消灯 22:00	

田村市立船引中学校 渡辺 智博

大学院で西川純先生の指導を



新学習指導要領には五つの



キーワードがあり特に生きる力を育むことにもつながる「主体的・対話的で深い学びを育む力が叫ばれている」という話があり、これらは青少年赤十字が目指すものと似ていると感じた。

また講話だけでなく、フィールドワークなどの様々な活動から、自分達で気づき、考え、実行する仕掛けが多くあり、生徒指導の三機能が育まれ楽しく活動が出来た。

三日目は、「JRCの活動をどのように学校教育にいかすか」のまとめと発表があった。私は最初は『自ら、子ども達が挨拶が出来るようになるためにはどのようにすべきか』という題材でレポートを作成

しようと考えたが、現在は二学年に所属しており『職場体験』を行っている。研修の前に企業から直接「学校は職場体験でお願いはあるが、それが営業などに反映されない」ことを言われたことを考え、教師主導ではなく、あくまで生徒が主導で、自ら気づき、考え、行動できる仕組みを考えたい。まずはよい職場とは何なのか考えさせ、職場体験終了後に企業のよいところを考えさせ、実習先のよさをまとめ、ポスターセッションまたは新聞にまとめたものを企業側に評価してもらい、どのような企業が地域にあるとよいかという、まちづくりの観点にもつながると考えた。そうすることで、必然的に地域には挨拶が増え、地域の商店の利用者も増えるということにつながっていくのだと考えた。



最後に、消極的であった私がいろいろな校種の先生方と出会い、気づかされた実りある三日間でした。この大切な経験を子供たちにも気づきさせ、実行させるような手立てを仕組み、生きる力を育む生徒を育てていきたいと考えている。

「教師が変われば、子供が変わる」

西郷村立羽太小学校 佐藤あゆみ

研修が始まるまで、自分はこの研修で何を学ばないのか、正直はつきりしない状態で参加していました。JRCの活動も募金活動やボランティア活動のイメージが強く、具体的にどんな活動をしているのかどんな活動をしていけばいいのかわからなかった。この研修に参加して改めて気づきました。

赤十字の成り立ちや七つの原則などを学ぶ中で、私の中に七つの原則の一つである「人道」という言葉が強く印象に残りました。「人道」とは人間の苦痛を予防したり軽減したりすることであり、思いやりややさしさの気持ちがあれば、人道的な行いは誰でも実践できる。どこかで分かっていたことであつたけれど、自分は果たして人道的な行いが本当に出来ているのだろうか、と少し不安になりました。赤十字の活動の職場での人道的支援はもちろん難しいですが、もっと身近で自分ができることはたくさんあるはずだと感じました。

また、学校教育が目指す子供像と青少年赤十字が目指す子供像と重なる部分が多いことも、この研修を通して分かってきました。「気づき・考え・実行する」子供を育てることは、日々の学校生活の中でも意識していることです。しかしながら、日々の学校生活では、子供たちに最初から準備させる、じっくり考えさせる時間がないなどの様々な理由から、教師がある程度準備した中で活動させてしまふことがありました。そんな中で今回の研修の中で実際に先見ボードを見ながら活動することや、ボランティアサービスの活動に自分で取り組むことで、少しのしかけをすることにより、子供たちは自分で動くことができるのではないかと、今まではなかなか子供が気づく場面をうばってしまっていたのではないかと考えるようになりました。最初から教師がすべて教えてくれると分かっていたら、当然子供はそれ待つようになります。しかし、自分で考え



懸念されていた交流学校訪問も、最終的には三校訪問することができました。そこで、学校を挙げての熱烈的な歓迎ぶりに、私たちも面食らうほど



でした。そのような中で、事前研修で準備していた交流会の出し物についても、回数を重ねるごとに創意工夫と洗練さを増し、最終的には私たちが満足のできるものになりました。それはまさに、毎日の「振り返り」の賜物でした。特に、名前を漢字で当て字したものを毛筆で書くパフォーマンスが、評判がよかった様子でした。

さらに、サマット山やゼロポイントの見学では、バアタ支部のユースメンバーが一

日同行して下さいました。移動中のバス車内がさながら交流会場となり、派遣メンバーたちは身振り手振りを交えながら生の交流を図ることができました。そこで垣間見たメンバー達の笑顔が、今でも印象に残っています。

一方、サマット山戦争資料館では、ユースメンバーから説明を受けることができました。立場は違えども、同じ第二次世界大戦のできごとです。それは、逆の立場に立ったとき、「はたして私たちは、同じように伝えることができるのか」と反省をした瞬間でもありません。知らなければ「伝える」ことはできません。「伝える」ために、「知る」こと。メンバー一人ひとりが、心に刻むことができました。

その他、パヤタス地区やバランガマーケット、ラスピニヤス地区のリサイクル施設など、多くの場所と施設を見学しました。それぞれの場所ですごくいろいろなことを感じ、そして学ぶことができました。

た。とても一言で言い表すことができません。

ひいて一つだけ挙げるとすれば、その場所で生活をしている方々の笑顔です。フィリピンは、私たちの想像を遙かに超えた貧富の差がある国です。しかし、どの場所でもマーケットが建ち並び、多くの子どもたちが楽しそうに遊んでいました。そこに足りないものは、労働の機会と生活に困らない程度のお金、そして夢を叶えるためチャンス、この三つなのかも知れないと感じました。

派遣メンバーは派遣当初、日本とフィリピンの文化の違いに強い戸惑いを隠せない様子でした。しかし、しだいに自身のできる範囲で主体的にアプローチできるようになっていきました。それは、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」ことができた成果だと思えます。なお事後研修にて、今回の派遣がきっかけとなって、自分自身がやりたいことに気づき、実現するために急遽進路を変更したという話を聞くことができました。正直、とても頼もしく思うとともに、これほどまでに大きな影響を与える学びの

機会なのかと驚きを隠せませんでした。

今回のフィリピン派遣での貴重な経験は、今まで積み重ねてきた私たち自身の生き方を振り返るきっかけとなります。

した。この事業への参加の機会を与えて下さった日本赤十字社福島県支部の皆様、そして関わって下さったすべての皆様に心から感謝申し上げます。

フィリピン派遣で考えたこと

郡山北工業高等学校 三年 齋藤 優真



フィリピンというとどんなイメージを思い浮かべますか？それは私が抱いた最初の疑問でした。フィリピンと聞いてどこの国？と疑問に思う人はいないでしょう。それはリゾート地であり、観光地も多く、都市部に目を向ける

と、さすがアジアで人口三位の国でもありますから。しかし、暗い部分に目を向ければ発展途上国、貧困問題を抱える国という現実が見えてきます。スラム街や町の雰囲気など、都市部を少し離れるだけで、日本では見たことのないような風景が広がっていました。特にソルトパヤタスという地区は、ゴミの山があること、ゴミ山から拾ったトタンや木材などで作られたバラック作りの家屋があることなど、驚倒の一言に尽きました。私はこの地区で活動する日本のNGOソルトパヤタスのツアーに参加し、町の様子を見たり、慰霊碑を訪れたり、家庭訪問をしたりしました。

しかし、そのどの活動より最も私が衝撃を受けたことは、子ども達が満面の笑みで笑いながら外で遊んでいたことです。端的に言えば日本にはない笑顔が溢れていました。近年、ネットワーク社会が急激な発展を遂げ、その最先端の先進国である日本。スマートフォンや家庭用ゲームが普及したせいか、公園で走り回って遊ぶ子ども達をそれほど見なくなりました。それ故に、子ども達が満面の笑みを浮かべながら遊ぶその姿は印象強く目に焼き付いています。

四日目以降はバタアン州に移動し、五日目の研修で「サ



マット山戦争資料館」に訪れました。この資料館ではフィリピンを舞台とし、日本軍、アメリカ軍が戦った悲惨な様子を知ることができました。日本軍やアメリカ軍がどこを拠点とし戦争を繰り広げていたのかが理解できる大規模な模型なども、展示されていました。戦争は私からしてみれば遠い過去の話ですが、まだ百年も経過していない新しい歴史でもあります。日本が行った過ち、それは許されることではない。そう知っているから私は心にとれない棘を感じました。そして、なにより心が痛かったことがひとつあります。それはバタアンのユースメンバーが笑って一つ一つ丁寧に教えてくれたことです。日本がフィリピンに犯した過去の非道な行いに引き換え、同じ日本人である私に優しく教えてくれたユースメンバーに

対し、胸がいっぱいになりました。フィリピン派遣は多くのことを考えさせられる研修でした。これからの自分に何ができるのか。三・一一の時、私は何も



平成30年度 トレーニング・センター一覧

地 区	月 日	会 場	参加人数	主 な 内 容
県 北	7月31日(火)	福島第一小学校	40名	AED講習会・ハイゼックス炊飯・交流タイム・フィールドワーク・振り返り
県 中	7月31日(火)～8月1日(水)	郡山自然の家	87名	講話「赤十字について」・救急法・フィールドワーク・ナイトハイク
県 南	7月25日(水)	表郷小学校	38名	救急法(心肺蘇生法・AED)・非常作り
北会津	7月31日(火)	国立磐梯青少年交流の家	54名	講話「赤十字の活動とJRC活動について」救命救急講習・フィールドワーク
耶 麻	8月1日(水)	福島県会津自然の家	62名	火起こし体験・野外炊飯・救急救命講習
両 沼	7月27日(金)	福島県会津自然の家	91名	講話「JRC活動について」・AED講習会・スコアオリエンテーリング
いわき	8月3日(金)	菊田小学校	43名	講話「JRC活動について」・防災教育プログラム
高校県	7月12日(木)～14日(土)	国立磐梯青少年交流の家	63名	赤十字概論・JRCのリーダー・人道法・救急法・国際理解・ボランティア・防災
県 北	8月3日(金)	いわき市	16名	コミュニティ福島・被災地視察(いわき市薄磯海岸)
高校県北	8月7日(火)	日赤福島県支部	29名	100文字提案・防災プログラム・救急法
	8月2日(木)	相馬市	23名	被災地視察(相馬市・新地町)
高校県南	9月1日(土)・2日(日)	フォレストパークあだたら	26名	防災キャンプ(テント設営、仮設トイレ設営など)・避難所を運営して(講話)
高校会津	8月6日(月)	県立葵高等学校	15名	避難所運営ゲーム「HUG」・図上訓練「DIG」
高校いわき	8月1日(水)	いわき市生涯学習プラザ	34名	避難所運営ゲーム「HUG」・身近なものを利用した応急手当

あ と が き



例年になく猛暑の中、今年もトレセンが各地区で実施されました。参加したメンバーは指示されない生活や先見な

ど実際に体験する中で自分身の生活を見直すきっかけになったのではないでしょう。か。ご指導いただきました先生方にも感謝申し上げます。

(事務局)